

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教 会 報

184号 2017年 11月 19日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「キリスト・イエスを誇りとし」

——フィリピの信徒への手紙 第3章3節——

牧師 渡邊 義彦



彼らではなく、わたしたちこそ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。(新共同訳聖書)

使徒パウロがまだ福音に反対する陣営に生きることが絶対だと思い違いをしていた頃、彼がまだサウロと呼ばれていた頃には、彼にとって福音伝道は害悪でしかないと思われてなりません。教会迫害者としての熱心さは、キリスト教会を破壊し壊滅させないではおきませんでした。サウロは、宗教センターであり、神の都であるエルサレムでのキリスト教徒たちへの迫害に留まらず、キリスト者たちを追って、祭司から許可書を得て北の町ダマスコへとキリスト者たちの捕縛に向かいました。このダマスコに向かう途上でパウロの回心が起こります。復活された主イエス・キリストが、サウロの行く手に立たれ、若者が迫害者としてダマスコへ行くのをお許しにならなかったのです。教会を迫害するために息急き切ってダマスコに急いできたサウロの行く手を阻まれて、これまでの彼であれば、決して近づくことも交わることも、言葉を交わすことさえも忌み嫌い避けてきた、軽蔑、侮蔑の対象でさえあった異邦人に福音を運び、宣べ伝える使徒、伝道者としてしまわ

れるのです。回心する者が生じる、キリスト者が誕生するのは、復活の主の奇跡の御業です。

わたしたちには、パウロのような劇的な回心があったでしょうか。激しいまでの嫌悪を抱いてきたキリストに、逆さまにあつと言う間に捕えられて、洗礼を受けてキリスト者とされてしまう回心もあるはず。また、そのような劇的な回心はないままに洗礼を受けて、キリスト者として歩み続けてきたということもあるでしょう。けれども、わたしたちの側の捉え方や感じ方が急激であろうと、またたとえ緩慢であろうとも、そこにはひとりの人が肉において生れたままの者ではなく、キリストの名によって呼ばれる者とされてしまう、復活の主がなされる奇跡が一人の人において起きています。キリスト者とされるというのは、わたしたちの捉え方がどうであろうとも、一人の人生に生じた、復活の主のなされる奇跡なのです。

迫害者であったサウロに洗礼を受けるのは、アナニアというダマスコのキリスト者でした。アナニアも最初はサウロに洗礼を受けることをためらいました。サウロがキリスト者たちを捕えるために町に向かってきているという情報がすでに届いていたからです。しかし、アナニアは神に従います。人間的な判断を押

しとどめ、彼はサウロに水を注ぎ洗礼を授けます。

洗礼によってサウロの目は開き見るべきものがはっきりと見えるようになります。キリストにだけ救いがあることを開かれた目によって理解します。目を開かれてサウロは、直ちに福音を宣べ伝えます。町の人々も、キリスト者たちにも、また今まで仲間であったユダヤ人たちにも福音を宣べ伝えます。サウロの回心は、これを伝え聞いた者たちすべてを驚かせます。彼の回心を喜ぶ者も、これを疑う者も、そして、これに激しく憤り、嫉む者も起こります。

キリストを知ることのすばらしさ、絶大さは、これまでサウロが誇りとしてきたものが救いのために全く役に立たないものであることを理解させました。律法の一点一滴もおろそかにすることなく生きること、割礼というユダヤ人であることにおいて絶対的と思われてきたしるし、しかし、これらは救いに何の助けにも、メリットにもならないことを知るのでした。救いは、わたしたちが努力や精進して手に入れるもの、得るものでもなければ、わたしたちが生れながらにすでに与えられている家柄や家系、素質や身に付けた能力、資格がわたしを救うのではないことに気づかせます。これまで誇りにし、頼り、救いにはこれが必ず必要だと思ってきたものが、実は救いには何の役にも立たないことに気づくのです。

サウロはパウロとされ、神のおられるほうに真実に向き直り回心し、キリストだけを誇りとし、キリストだけが救いであることを知り、イエス・キリストこそが救い主であることを信じました。キリストを誇りとするとは、キリストだけを頼りとし、キリストだけに救いの一切を願うということです。サウロは、パウロとされて、キリストの救いによって生かされる者とされました。

キリストが生かしてくださる生き方は、幸いな生き方です。この世の何ものにもこだわらず、固執せずに、ただ、救いをキリストにだけ求める生き方を、この地上の人生の間に、はじめるとは幸いです。パウロも、テモテも、エパフロディトも、フィリピ教会の兄弟姉妹たちも、彼ら、彼女たちは、地上の人生の中で、キリストに捕えられて、キリストの呼び声にお応えして幸いな生き方をはじめた人々です。教会の歴史の中で、数えること能わない幾多のキリスト者たちが、地上の人生の間に、キリストの招きにお応えして幸いなときを生きはじめ、また眠りに就きました。わたしたちも同じ幸いの中に生かされてゆきます。

幸いをいただく、わたしたちの歩みには、それでも失敗も躓きもあるでしょう。しかし、そうであっても決してめげることなく耐え得るのは、キリストが、失敗されることもなく、敗北されることもないからです。主イエス・キリストが十字架の救いの御業を果たしてくださったゆえ、勝利のみがあるのです。キリストは、生命を勝ち取る勝利をすでに十字架において確かなこととしてくださいました。ですから、わたしたちは、キリストをこそ、十字架のキリストをこそ誇りとします。「誇る者は主を誇れ」との御言葉のとおりです。

集会出席統計（月平均人数）

	2017年	
	9月	10月
主日礼拝	87.8	80.2
聖書と祈り会	19.0	18.0
教会学校*	105.8	95.6

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	9月3日	10月1日
聖餐夕礼拝	9	9

「私と教会」

山田 みち子

私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。
(ヨハネによる福音書 第15章5節)

物ごころついた時から私の中に教会がありました。柿ノ木坂教会の幼児グループを卒業して、日曜日に教会学校に行く（そのころは土曜日だったかもしれません）。一ヶ月休まず出席すると、かわいいカード（今でも子どもたちがもらっているような・・・）を、ただけました。いろいろなカードの中でも、子どもごころから、一番覚えていたのは、この聖句でした。

ごく幼いころ、私だけ小川牧師の家族と食事をしたことを覚えています。小川先生が、食前のお祈りをしている間、それまで食前の祈りをする習慣がなかった私は、一人で食べ始めていました。その後、我が家でも朝食の前に、父が祈って食べるようになりました。

その牧師館の庭に、いつもまっ赤なガーベラが咲いているのを思い出しました。大人になっても好きな花の一つです。

結婚して、教会には遠ざかっていて、年に何回か、両親とイースター礼拝、クリスマス礼拝に出席する程度でした。

6年前に、生家にもどってきて、教会に通う習慣がもどってきました。

礼拝に出席して思うこと。静かな中、オルガンの調べ、讃美歌の声、説教者のことば、お祈りの声、時々聞こえる、子どもの物音・・・
他は気持ちのいい静けさ・・・ そんな中、

6人のひとが、献金袋を集め終えて、左右の人々と目で合図して、カッカッカ、コツコツコツとそろって前に向かう足音。聖餐式の時、パンを配る音は何もありません。ブドウ酒をくばり、みな飲み干し、小さいグラスを、金属のお盆に入れるカチャカチャという音。

そして、最後に司式者が「これで礼拝を終わります」と告げたあとのオルガン。だいたいが明るい変奏曲だったり、“今日の礼拝は終わった！ ありがとう！”と、オルガンが歌っているようです。それらの音、大好きです。

この秋、オーストリアに行く機会があり、自然豊かな中の教会、ウィーンの街中の小さい教会で、礼拝を見学し、パイプオルガンの演奏を聞くことができました。ほとんど、他の教会に行ったことがなかったので、あたりまえのようにある、歴史的なパイプオルガン、ステンドグラス、フレスコ画、祭壇等を見て、荘厳な雰囲気、体いっぱい味わいました。



20年位の間、に他界した両親、夫、1年前に召された、高校の時からの大親友を思い、日々の祈りの中、日曜日の礼拝の中で、神様とつながり、大切な人々とのつながりを思う時、その聖句が思い出されるのです。

「夏期伝道実習報告」

東京神学大学 川嶋 章弘 神学生

7月23日から8月20日まで、五回の日曜日を含むほぼ一ヶ月間、千歳船橋教会に遣わされ、朴憲郁牧師の指導のもとで、夏期伝道実習を行わせていただきました。千歳船橋教会は、小田急線の千歳船橋駅から10分ほどの住宅街にあります。礼拝堂の正面には、ステンドグラスがあり、光を受けて印象深い雰囲気を醸し出していました。また、パイプオルガンがあり、礼拝の賛美を豊かなものにしていきます。

夏期伝道実習における実習の内容は、遣わされる教会によって異なり、また多岐にわたりますが、実習の中心は、主日礼拝の説教奉仕であると思います。私は、主日礼拝の説教奉仕を二回させていただきました。

8月6日の平和聖日礼拝では、イザヤ書11:1-10とエフェソの信徒への手紙2:11-22で、「キリストはわたしたちの平和」と題して、み言葉を語らせていただきました。今年、8月6日が日曜日ということもあり、み言葉と向き合いながらキリストにおける平和について、深く思い巡らすときが与えられました。また、実習最終日の8月20日の主日礼拝では、創世記3:1-13とローマの信徒への手紙5:12-21で、「死に至る罪、命に至る恵み」と題して、み言葉を語らせていただきました。朴先生が、キリスト教教育だけでなく、パウロ研究をご専門にいらっしゃることもあり、この説教の備えの中で、パウロ神学についての学びを深めるときが与えられました。

この主日礼拝説教奉仕を通して、講壇から語ることの重みを、身を持って体験させていただきました。多くの時間を費やして準備をしたとしても、「自分が語る」では講壇に立つことはできない、「主がお語りくださる」ことを信じて、聖霊の働きを信じて講壇に立つことがなくては、み言葉に仕えることは出来ないことを教えられました。

千歳船橋教会では、毎週祈り会が持たれていますが、その祈り会の奨励も二回担当させていただきました。祈り会では、数名の方たちと共に、聖書を輪読し、賛美歌を歌い、祈りをささげました。奨励についてのこぼれ話になりますが、私は話すのがあまり得意ではない

ので、最初は完全原稿を作成して奨励の備えを進めていました。しかし、朴先生から完全原稿ではなくメモで奨励に備えるようご指導をいただきました。完全原稿だとどうしても原稿に縛られてしまい、語っている中で与えられる言葉に対して自由でなくなるため、メモで語る訓練も必要とのことでした。実際、メモで奨励を行ってみると、言葉が出てこないこともありましたが、言葉をつなぐ大切さ、メモから語ることの大切さを学ぶことができました。

教会学校は、柿ノ木坂教会と比べると規模が小さく、以前は幼小科と中高科で分かれていたとのことでしたが、現在は幼児から高校生までと一緒に礼拝をささげています。教会



千歳船橋教会の礼拝堂 (Photo: Izawa)



千歳船橋教会の教会学校のみなさん

学校礼拝の説教奉仕では、子どもたちの年齢の幅がとても大きかったことが難しかったといえます。小さい子どもたちに分かるように話すと、中高生には退屈になってしまい、中高生向きに話すと、小さい子どもたちには難しくなってしまうので、子どもたちの顔を見ながら、言葉を選びつつ語りかけるように意識しました。

また、千歳船橋教会は、近隣の学校や病院

との相互交流があり、学校、病院と結びつくことで、地域に根差した教会になっていると思いました。他方で、千歳船橋教会でも、高齢化が進み、礼拝出席者が減っているとのこと。長く教会生活を続けてこられた方々が、教会に行きたくても、行けないという現実を改めて受けとめました。

神学生としての歩みを前に進められなかった時間が長かった中で、夏期伝道実習に遣わされることが許され、また実習を終えることができたことを、神さまに感謝しております。受け入れてくださった、千歳船橋教会の皆さま、また、私の神学生としての歩みを、忍耐と祈りを持って、お支えくださっている、柿ノ木坂教会の皆さまに心より感謝申し上げます。建てられた地域によって、教会のあり方はそれぞれに異なるということを感じる一方で、主の日に礼拝がささげられ、み言葉が語られ、賛美と祈りがささげられることにおいて、私たちはキリストによって結ばれた神の家族であることを深く実感する実習となりました。

☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと

- ◇10月22日(日) 子供と共に守る礼拝(CSとの合同礼拝)
- ◇10月29日(日) 礼拝後、学びの会「宗教改革の礼拝」
- ◇11月5日(日) 聖徒の日記念礼拝、礼拝後この1年の間に天に召された方々のご親族をお招きした茶話会が開かれた。

◆これからの予定

- ◇11月26日(日) 教会学校、収穫感謝日礼拝
- ◇12月3日(日) ～待降節
- ◇12月6日(水) 13:30～いずみ会、新生会合同アドヴェントの集い
- ◇12月8日(金) 10:00～幼稚園保護者のためのクリスマス礼拝
- ◇12月14日(木) 10:00～幼稚園クリスマス礼拝
- ◇12月24日(日) 10:30～降誕祭礼拝
15:30～16:30 教会学校クリスマス礼拝(ページェントによる)
18:00～聖夜礼拝
- ◇12月31日(日) 礼拝後大掃除の予定

「いずみ会のこと」

中村 ^{ともみ}知美・高頭 みちる

1. いずみ会のこと

中村 知美

私が恐れ多くもいずみ会会長になってから、早くも5年近くになります。主な活動は、礼拝後のティータイムの運営と、毎月第4主日礼拝後に例会(6月と8月は休み)を行っています。

「いずみ会って何しているの?」と聞こえてきそうですが、活動内容は、バラエティに富んでいます。今年の内容を、ざっと紹介します。

4月は一年のスタート。前年の反省も含めて総会を持ちます。5月は渡邊先生による聖書研究会。7月は松下先生の聖書研究会。ルツ記について学びました。松下先生とは、なかなかゆっくり時間をもつ機会がないので、和やかな実り多い聖書研究会となりました。

9月は川嶋神学生による、夏期伝道実習の報告会と成松三千子さんによる福島ワークキャンプレポート。

このワークキャンプは2011年3月の東日本大震災直後から実施され、当初は若者の力を必要とする労働奉仕でした。その後、いわき市の磐城教会を通して、いわき市被災地教会訪問と原発事故を学ぶ研修ツアーが実現し、教会の奉仕、交流等を通して以降3教会の受諾のもとに続けられることになりました。2017年で第6回目を迎えます。

震災後6年半が過ぎているにもかかわらず、被災地の復興はまだまだの所も多く、生活面はもちろん、心ない中傷などで精神の balan

スを崩す方も多くいらっしやるとうかがいました。

ますますの祈りが大切な意味を持つてくると思いました。

内容的に皆さんに是非参加していただきたかったので、広くお声掛けしました。3名の男性の方の出席があったのは感謝です。

10月は昨年好評だった「手仕事会」です。現実問題として、教会のバザーが昨年で終了となりました。いずみ会としては、出来ることから始めましょう! ということでクリスマスカードの製作を行いました。カードの一部は南支区に捧げられます。売り上げは、すべて教会建物委員会に捧げられます。

世の中は安価で何でも手に入る便利な生活です。でも皆で集まっての手仕事もまた楽しいものです。まだの方も次回はぜひご参加ください。楽しいですよ。

年度の後半は、11月は渡邊先生の聖書研究会。12月は新生会合同のアドヴェントの集い。内容は企画中です。お楽しみに!

例会の活動内容は、まだ考える余地もあって日々反省反省なのですが、ここ何年かは安定してきたように思います。以前は東神大見学ツアーを企画して好評でした。ただ毎年ですと世話係も大変なので、これからは2~3年に1度でも行事に取り入れたいと考えています。

「いずみ会」は、以前、婦人会と呼ばれていました。故坂上信彦兄などから、壮年男性も加わるような会にとの提唱があり、1997年度初めの婦人会の総会で、「いずみ会」と名称を改めたものです。一方、壮年男性の「榎の木会」もありますが、これも女性の出席を歓迎しています。

2. 南支区婦人部とのかかわり

高頭みちる

南支区婦人部の主な活動は、年2回の全体集会和、合同婦人会・総会です。聖書の学びと、普段なかなかお会い出来ない他教会の婦人方との交わりを深める貴重な場です。

講演内容の決定、講師の先生への依頼、チラシ・プログラムの作成・発送、会場準備などを南支区29教会から選出された7、8名の委員が行います。

これまで、柿ノ木坂教会いずみ会は、その委員を多く担って来ました。婦人部委員長長の役を担った姉妹も多いです。

しかし、最近どの教会も高齢化で委員のなり手がなくて苦勞しています。そんな中、

今年度、T姉に委員をお願いしましたところ、「いずれはやらなくてはいけないと思っていたのでお引き受けするわ」と言って下さいました。

柿ノ木坂教会いずみ会の先輩の姉妹方のこれまでのご努力が継承されているのだと思いい大変感動いたしました。

教会は一つでは成り立っていきません。支区そしてさらには教区・教団とのつながりが必要です。そのために、これからも南支区婦人部とのつながりを大切に、関わっていきたいと思います。(＊高頭みちる姉は昨年度の南支区婦人部委員長です。)

教会報編集委員会の補足

いずみ会には柿ノ木坂教会の中だけでなく、南支区、東京教区、さらに全国的な組織の中でも活躍されている方が数多くいらっしゃいます。(以下敬称略)

☆南支区

- ・社会部委員長、信徒活動委員長、南支区常任委員：高頭みちる
- ・婦人部若木会委員長：岩田良子
- ・婦人部委員：鶴田真希

☆東京教区

- ・社会部委員：高頭みちる

☆日本基督教団

- ・にじのいえ信愛荘運営委員会委員：成松三千子

☆日本基督教団全国教会婦人会連合

- ・正典研究委員および、にじのいえ信愛荘協力委員：成松三千子
- ・文書委員：美根明子

＊なお、全国教会婦人会連合とは教会婦人の全国組織で、以下のような会です。

正式名称「日本キリスト教団全国教会婦人会連合」、教団の宣教委員会に連なり、「御言葉によって立つ信仰」と「教会に仕えること」を大切な基本姿勢として、全国的な婦人宣教活動と教会婦人の連帯のための働きを主体的に担っている団体です。活動は全国からの自主献金で運営されています。そして、中央委員会を最高議決機関とし、教会婦人会の連帯の強化と婦人の宣教活動の推進に貢献することを目的としています。その目的を達するために次のことを行っています。

- (1) 情報活動、(2) 研究調査活動、(3) 指導者養成、(4) 文書活動、(5) 世界教会運動、(6) 全国的集会の開催、(7) 全国的献金活動、(8) 日本基督教団隠退教職ホームにじのいえ信愛荘に関する奉仕活動。(以上婦人会連合のホームページより)

☆日本キリスト教協議会(NCC)

- ・常議員および、ドイツ教会関係委員会委員：成松三千子

今月のメッセージ

— ホームページ巻頭言 から —

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
<http://kakinokizaka-church.com>

わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその上に家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。(新共同訳聖書・コリントの信徒への手紙一第3章10～11節)

10月31日は、巷はハロウィンで賑やかな日でしたが、教会では宗教改革が始まったことを記念する日でした。今年は特に、1517年10月31日の日付をもって、マルティン・ルターが「95箇条の提題」を提示し改革の発端をやるしてから500年を経た記念日となりました。宗教改革500年を記念して幾つもの集会や講演会が行われています。わたしたちの教会でも、ささやかな小さな集会でしたが、10月最後の日曜日、主日礼拝の後に、宗教改革の礼拝をテーマにして学びの会を持ちました。

ルターが取り組んだ新しい教会建設の運動は、主に三つの運動の原則にまとめられると言われます。「聖書のみ」、「キリスト、恵み、信仰のみ」、「すべての信徒が祭司である」の三つです。礼拝後の学びでは、この原則に則して、わたしたちの教会が受け継いでいる礼拝のことを考えてみました。

聖書を、わたしたち一人一人が手にすることができることは、宗教改革当時を考えると当たり前ではなく、わたしたちが自分たちの日常の言葉で、聖書を読み聞かせることができるのも当たり前ではありませんでした。ルターがドイツ語訳聖書を活版印刷された本として発行して聖書翻訳は新しい時代を迎えました。日本にも明治時代の黎明期に、主としてアメリカから海を渡

って来てくれた宣教師たちが邦語訳聖書を準備してくれました。

キリスト以外に救いを求めたり、キリスト以外に救いのために何かを付け加えたりしないことは、宗教改革当時のみならず、どの時代にも覚え続けなくてはならないことです。この意味からは、キリストを救い主と信じる信仰によってのみ救われるということは、使徒パウロが聖書に残してくれた信仰内容の再発見でもありました。わたしたちの宗教も、教会も、信仰も、わたしたち信者の呼び方も、すべてにキリストの御名が記されていることにも、同じ信仰を表現しています。

わたしたちは母国語で祈ることができます。わたしたちの日常の言葉で讃美を歌うことができます。聖書を読み聞かせること、祈り、讃美することは、聖書を専門に勉強し、祈りの修練を積んだ人たちだけのものではありません。誰もが、聖書を読み聞き、祈り、讃美することができます。これらのことも宗教改革の運動の中で改めて教会が気づかされたことでした。

聖書のみ神の御言葉を聞くこと、キリストのみ救いを信じること、聖職者だけでなく、すべてのキリスト者たちに祈りが、讃美が開かれていること。このことを、わたしたちの教会は、毎週の主日礼拝で集中して表しています。もし、宗教改革者たちの発見が真理、真実でなかったならこの500年を迎えることは難しかったに違いありません。

神の御心に従い、それぞれの教会に与えられている賜物を良く用いて、キリストのみがわたしたちの救い主でいてくださることを、これを聞くことを待っている世界に宣べ伝え続ける志を、この記念のときに新たにしたいと願います。

(牧師 渡邊 義彦)

—— 編集後記 ——

- ・宗教改革500年の節目の年。私たちの教会も10月で81年目の歴史を刻みました。神様が備えてくださったすべてに感謝します。
- ・川嶋神学生から夏期伝道実習の報告を受けました。将来、派遣される教会でよい牧会をされることをお祈りします。
- ・いずみ会の皆さまの幅広い活躍を書いたいただきました。いずみ会は教会の堅固な礎(いしずえ)のひとつだと感じます。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規